



カレブ通信

2011 年 12 月 15 日

第 10 号

1 各地カレブの会の予定

内容

- 1 2012 年度各地のカレブの会の予定
- 2 東京カレブの会
カレブの会へ提言
- 3 カレブ ストーリー 1
原田浩司さん
- 4 カレブ ストーリー 2
根田裕道さん

あなたの天幕の場所を
広げ、あなたの住まいの幕
を惜しみなく張り伸ばし、
綱を長くし、鉄のくいを
強固にせよ。

あなたは右と左にふえ
広がり、あなたの子孫は、
国々を所有し、荒れ果てた
町々を人の住む所と
するからだ。
イザヤ 54:2,3

● 東京カレブの会

次回 2012 年 2 月 24 日 (金) OCC402 集会所 午後 6:00 から 8:30

● 宇都宮カレブの会

次回 2012 年 2 月 4 日 宇都宮シャローム 午後 3:00~5 時半

● 宇大カレブの会

次回 2012 年 3 月 31 日 (土) 栃木県佐野市

● 仙台カレブの会

次回 2012 年 1 月 14 日または 28 日

2 東京カレブの会～メンバーからの報告～

12 月 9 日、OCC402で今後のカレブの会に関する意見交換

- ・カレブの会の二つの目標は今後の大切な目標であることを確認
- ・主イエス・キリストの宣教に見習う姿勢が大事(小川)ルカ4:16~22a
- ・星野兄から提案された課題に沿って話し合う((a)(c)(e))

(a) 未信者をカレブの会に入れてゆくか？

カレブの会がこの世に会って地の塩、世の光として用いられるために未信者も大切

(b) カレブの会に何人が集まっているかはあまり重要ではない。

それよりも カレブの会の個人個人の存在(あかし)が大切、

(c) カレブの会の広報をどうするか。

この世に会って地の塩、世の光として用いられるために広報は大切。外部からの情報提供の要請には積極的に答え、必要に貢献する。クリスチャン新聞にカレブの会のメンバーの証の連載、山本兄(百万人の福音、2012 年も連載)、星野兄(クリスチャン新聞連載)で会がPR されている JEMA の Japan Update には 2 月レポート(小川)

(d) 交わりにネットに利用を検討したい

カレブの会の内部でもさまざまなコミュニケーションの手段を用いてゆく。互いの必要を知り合う、祈り合う。東京、宇都宮、仙台を分けなくて出来るのでは(スカイプの利用などで)カレブ通信は、各地に送付する(メール)

(e) 助け合うプロジェクトは何か？

必要を知り、それを満たす方法を検討する

(f) カレブの会の今後の方向としての提案(今回欠席の山本兄から)

この世のインサイダーとして、自己満足することなく世の必要にも応じてゆく。

(g) 聖書を良く理解し、聖霊が働けば、容易に事は進む(伊藤兄)

聖書+祈り+賛美 が大切 自分はなにも出来ない、という自己認識が必要

3 カレブ ストーリー（1）

「教職経験を活かして」

原田浩司



原田浩司ご夫妻

本来、学校は子どもたちや先生にとって、夢や希望のもてる楽しい所でなければなりません。学校は、人と人がいがみ合ったり、争い合ったりする場所ではないはずです。この学校には「互いに愛し合いなさい」というイエス様の言葉が必要でした。私は、特に心や体が傷ついている子どもたちに対して、まず初めに校長である私が愛の教育実践をしようかと決心しました。

私は現在小学校に勤務し、4年前から校長職にいます。長年教師をしていると、子どものことで難しい壁に突き当たることが多々あります。例えば、指導が難しい子どもの問題や保護者対応の困難さ、さらに校長として教員をどうまとめてゆけばよいのかと悩むことがあります。特に、現在勤務している学校では、4年前までは地域で一番問題の学校といわれていました。それは、児童養護施設（多くは虐待を受け親元から離れて生活する施設）から通ってくる子どもたちへの指導が難しく、その対応に先生方が苦労している学校だったからです。いわゆる児童虐待を受けた子どもたちの多くは、親から裏切られ愛情を受けずに育っていますから人を信用することができません。ですから友だちと仲良くしたり、先生の言うことに素直に従うことがとても苦手です。中には、暴力や暴言、器物破壊、盗癖、非行、発達障害、精神疾患など深刻な問題を抱えている子もいます。普通の指導では全然言うことを聞かずに、先生方を大変困らせたり友だちをいじめたりすることが毎日繰り返されていました。そうした学校に校長として赴任して、最初にしたのは「子どもたちや先生方が安心して生活できる学校にしたい」という強い願いでした。

本来、学校は子どもたちや先生にとって、夢や希望のもてる楽しい所でなければなりません。学校は、人と人がいがみ合ったり、争い合ったりする場所ではないはずです。この学校には「互いに愛し合いなさい」というイエス様の言葉が必要でした。私は、特に心や体が傷ついている子どもたちに対して、まず初めに校長である私が愛の教育実践をしようかと決心しました。そして次の日の朝、スーツからジャージに着替え、一番手にかかる3人の子どもたちと遊ぶことにしました。その子どもたちは、学校に来て昇降口から入ろうとせずに先生方と格闘していました。普通の子のように下駄箱から教室に行くことができないで、先生方を毎日困らせていたのです。私は、まず野球道具を用意して遊ぶことを提案しました。勉強嫌いな3人はすぐに賛同し、1時間一緒に汗を流す日が続きしました。その後、一緒に話したり勉強したりすることもできるようになると、子どもたちの変化が表れてきました。顔の表情が穏やかになり自ら心を開くようになったのです。今まで虐待を受けてきた子どもたちは、心を閉ざし緊張状態にありました。そうした子どもたちと一緒に楽しい時を過ごしていくとお互いの心が徐々につながっていきます。イエス様も子どもたちを遠ざけるのではなくご自分のそばに呼んでくださいました。子どもたちはいつの時代でも愛情に飢えています。愛がなければ健全に成長しないのです。こうした校長としての行動は、徐々に他の子どもたちや先生方にも広がっていきました。そして、半年後にはみるみる学校が良くなっていったのです。今では、どうしたらこうした学校経営ができるのかと関心が持たれ、新聞で紹介されたりして参観希望者が増加し続ける学校になっていったのです。「わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう」（マタイ25：23）というみことばは真理であり、多くの良い実を確実に残すのです。

そうした教員生活も残すところ2年数ヶ月です。退職後は、スクールカウンセラーか発達相談のような教職経験を生かした仕事をとおして、若い先生方をサポートしていきたいと考えています。また、現職の頃はできなかった教会のサポートやチャーチスクール、海外宣教のサポートも本格的にやってみたいとも思っています。そして、ゆったりとした時間を共有できるカレブの会の仲間と祈りや交わりを楽しみたいとも考えています。カレブの会は、私に退職後の人生に新しい視点を与えてくれる可能性秘めていると信じています。

原田浩司さんは、「宇大カレブ」（宇都宮大学の卒業生のカレブの会）のメンバーです。

お問い合わせ先：

kharada@sea.ucatv.ne.jp

4 カレブ ストーリー (2)

還暦を前にして思う事

根田 裕道

私のプロフィールについて、1952 年 10 月仙台生まれ仙台育ちの 59 歳。東北学院大学電気工学科卒、電気関連の会社に入社して 37 年目になります。趣味は絵画鑑賞、制作。結婚 30 年、息子一人、娘二人、ごくごく普通の一般的な家庭を築いてきました。

入社した会社は当初、仙台営業所が無く東京本社勤務でした。妻とは東京にて知り合い、結婚当初、仙台には戻らないつもりで、埼玉県所沢に中古住宅を購入し、新居を構えましたが、2年後の 1983 年 29 歳の時に会社の仙台営業所を立ち上げることになり、仙台に戻るようになりました。たった一人から仙台営業所を立ち上げ、当初売り上げが6千万円/年、現在は仙台営業所 7 名 売り上げが8億円/年となりました。他に札幌営業所 3 名も開設、売り上げ2億円/年となっています。会社人生、そして家庭内も多少のトラブルはあったかもしれませんが、特に問題なく今までは順風漫步に送ってこれたと思います。

ただ、いつも今があることを感謝していました。何故なら、それは常に何かの犠牲の上に成り立っているのではないかと思っていました。たとえば、仕事がうまく受注できたときは他の競争相手は敗北しているわけです。これだけ業績を伸ばせば、相手は撤退せざるおえなくなります。撤退した企業の社員は部署を変えるか職を変えるしかありません。ひょっとすると生活も逼迫しているかもしれません。もっと大きく捕らえると、食べる物も住むところも与えられ、健康であり豊かな生活を送って来られたのは、すべて何かの犠牲の上に成り立っているということではないかと思っています。そして、2009 年 4 月にバプテスマを受けてからは、このように神様から与えられた幸せを少しでも分かち合えたらと思っていました。

そんな折、カレブの会を知りました。これからの人生の余力を自分の為にだけに使うのではなく、少しでも他にお役に立ちたいと思っていましたので、仙台在住の小川徹様ご夫妻からのお勧めもあり、仙台カレブの会の立上げに参加させていただく事になりました。

仙台カレブの会について持続していけるよう、あまり負担にならないように、クリスチャンという分け目も無くし、周りの友人たちも交えて、良い時間を分かちあうものとしましょうということになりました。ただ、どのようなものにしていくべきかは神様を中心に置き委ね考える事にしました。そして何をしようか、色々話し合った結果、思いついたのがお茶会をする事でした。

たまたま母が昔、お茶を趣味としており、一時期、我が家でもお茶会を模様していたことがありました。そのため、お茶道具はある程度あり、また、茶室の体裁も整えている座敷があり、炉まで切ってありましたので、それは好都合ということで実施する事にしました。ただ、なにぶんお茶を正式に覚えている方がいませんでしたので、ちょっとお茶をかじっている友人にも参加して頂くことになりました。11 月 12 日土曜日 14 時から、参加者は大人 8 名、子供 2 名、堅苦しくなく、「なんちゃってお茶会」はとても楽しいものとなりました。

炉に置いた炭の匂いと、陶器のお茶碗のぬくもりと、抹茶のほのかな苦味が、先ほど頬張った砂糖菓子の甘味を抑えて平安を与えてくれました。お茶のお師匠もいなかったもので、みんなであうでもないこうでもないと言って、一つの事を心一つにしてやれた事がとても良く、終わった後は一体感を味わえた事の至福の時を過ごせたという満足感でいっぱいでした。集って下さいました皆様に感謝致します。そして、大変盛り上がったので、好評につきお茶会をまた計画することになりました。

このように一つの事を心一つにして楽しい時間を持つ事が、神様から頂いている生きる事の幸せを共有できるのではないかと思います。そして、お互いの絆が深くなる場として、今後も焦らず、気を長くして仙台カレブの会を持続していきたいと思っています。



根田ご夫妻

「仙台カレブの会」
メンバー

お問い合わせ先：

neda@ky-tec.co.jp

仙台カレブの会について持続していけるよう、あまり負担にならないように、クリスチャンという分け目も無くし、周りの友人たちも交えて、良い時間を分かちあうものとしましょうということになりました。ただ、どのようなものにしていくべきかは神様を中心に置き、委ね考える事にしました。そして何をしようか、色々話し合った結果、思いついたのがお茶会をする事でした。



「なんちゃってお茶会」
仙台カレブ

